

学術フォーラム

「学術の未来とジェンダー平等」

GEAHSS—人文社会科学系学協会を ジェンダー平等でつなぐ試み

井野瀬久美恵
(GEAHSS初代委員長、甲南大学教授)
2019年11月17日

人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会
(Gender Equality Association for Humanities
and Social Sciences. 通称GEAHSS, ギース)

- ★ 2017年5月21日：ギース発足会合 (@一橋大学、日本哲学会会場 →以後、アウトリーチ活動を展開)
- ★ 2017年9月29日：学術会議でのフォローアップ会合(加盟4団体)
- ★ 2017年12月16日：公開シンポジウム「人文社会科学分野の男女共同参画を目指して」(@奈良女子大学、日本ジェンダー史学会、加盟20団体)
- ★ 2018年2月27日：学術会議総合ジェンダー分科会とギースの第1回連携会議 (@学術会議、加盟37団体)
- ★ 2018年3月31日：公開シンポジウム「人文・社会科学系学協会における男女共同参画をめざして」(@お茶の水女子大学) 同時開催の第1回運営委員会(加盟46団体)で規約・組織など最終決定・承認、役員会発足

★2018年5月18日：自然科学系男女共同参画連絡会との懇談会 @建築会館 →定例化希望

★ 2018年6月2日：アウトリーチ活動会合 (@名古屋大学GRL、日本西洋古典学会)

2018年6月13日、「人文社会科学系研究者の
男女共同参画実態調査」実施依頼配信
(当初9月末締切・11月末締切)

★2018年9月9日 日本宗教研究所学会連合 (@大谷大学)

★2018年9月28日：第2回運営委員会(加盟58団体)

★2018年12月6日：アジア学術会議(SDGs Goal 5 GENDER)

★2019年2月9日：第3回運営委員会+公開シンポジウム「なぜできない? ジェンダー平等」(加盟68団体)

★2019年9月27日：第4回運営委員会(加盟67団体)

主な活動内容

規約 第3条(事業)

- 1 本連絡会は、前項の目的を達成するために、日本学術会議との連携を図りつつ、次の事業を行う。
(1)学協会におけるジェンダー平等に関するグッド・プラクティスの調査・公表
(2)学協会におけるジェンダー統計に関する調査・分析・公表
(3)シンポジウム、ワークショップなどの開催
(4)学協会間の連絡網の構築と交流の促進
→場としてのアウトリーチ活動
(5)その他本連絡会の目的を達成するために必要な事業

具体的な活動主体となる4つの委員会

* 大規模アンケート調査委員会——24期学日本術会議とギースの連携事業であり、第一部総合ジェンダー分科会との「共同委員会」として進めた。cf. 理系の学協会連絡会に学びつつ、違いを個性とする →分析の生かし方として、

- ①若手研究者のキャリアパスの可能性、ロールモデルを探り、提案する
- ②人文・社会科学系の「学問の質」向上とジェンダー平等との関係を、データを含めて事例研究し、共有、政策提言に生かす
- ③医学系・理工系、企業などとの連携の可能性を探り、提案する
- ④海外の各種取組みとの協力関係を構築する

* アウトリーチ活動委員会——諸学会とギースのインターフェイスであり、「ギース活動の可視化、問題点・意識の共有、解決に向けた取組み促進」等の要となる

* 企画・運営委員会——学術会議との共催年次シンポジウムの企画・提言協力など、アウトリーチ活動以外のギースとしての活動・事業計画・提案・実行に当たる

* HP・広報委員会(委員長は事務局長を兼任)

GEAHSS設立までの歩み

★ 2013年4月2日：人文社会科学系諸学会男女共同参画連絡会設立準備会 初会合 (@学術会議会議室)

★ 2014年5月31日：公開学術フォーラム「男女共同参画は学問を変えるか?」(@学術会議講堂)

★ 2015年8月24日：学術会議第一部に総合ジェンダー分科会設置(第一部10分野の代表)

★ 2016年3月5日：公開学術フォーラム「若手研究者養成とジェンダー——人文・社会科学領域における女性・若手研究者養成支援」(@学術会議講堂)

★ 2017年1月21日：公開学術フォーラム「どう実践する! ジェンダー平等——人文社会科学系学協会における男女共同参画推進に向けて」(@学術会議講堂、学会の取組み+グッドプラクティス紹介)

設立の経緯から、人文社会科学系学協会を緩やかにつなぐ役割が織り込まれている

←2015年6月8日文科科学大臣通知(6.8通知)

2015年8月24日：学術会議第一部に総合ジェンダー分科会設置 (10分野の代表)

*2015年の「6.8通知」を契機に、人文・社会科学系の振興のための「横の連帯」の役割が内在する

*女性・若手研究者支援のために必要な数値化・可視化の推進
 新入会員に占める男女比率 / 競争的資金獲得の男女比率
 投稿論文掲載選択における男女比率

*ジェンダー視点を持つこと=各専門研究にとってプラス・インパクトとして捉える必要性

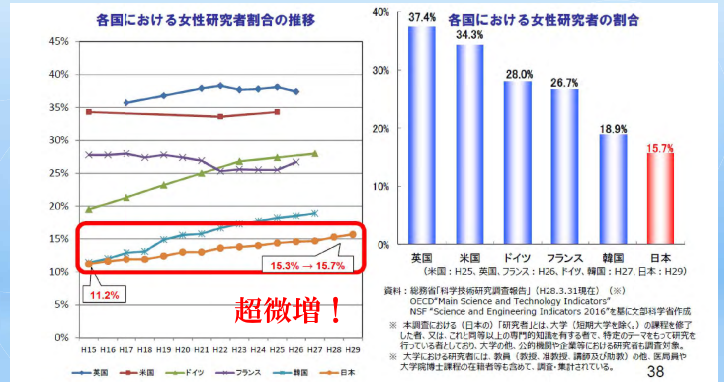
→各専門領域・学問・研究の質の向上や学会として今後の展望と、ジェンダー平等との関係をevidence-basedで可視化する。

例 無意識のバイアス(unconscious bias)への意識
 ダブルブラインド査読への関心

GEAHSS設立の最大の動機

「人文系にはデータがない！」

第1回 人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査



アンケート回答総数が 2972 しかなく、無作為抽出ができず、統計的有意性の確保に問題。

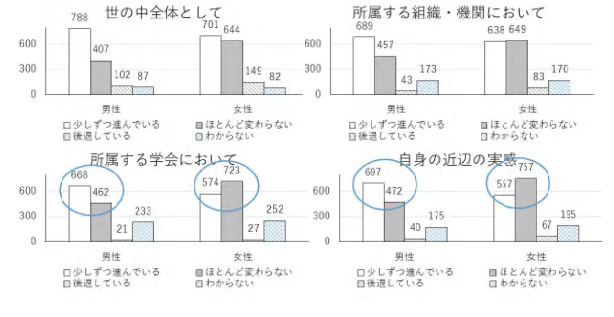
男性1384、 女性1576、 その他12
 (46.6%) (53%) (0.4%)

40歳未満 38.8%
 40歳以上 64.2% (40歳未満の1.6倍)

このアンケートに関して、余り苦勞なく進んでこられた方が創られているように思われます。簡単に答えられないので、非常に時間がかかりました。こうしたアンケートについていつも思うことですが、やはり子どもがいて当たり前の感じを受けてしまい、気分が暗くなります。(史学系、任期なし教員)

資料 男女共同参画をめぐる認識 (滑田明暢・静岡大学准教授作成)

問い：ここ数年の範囲で男女共同参画が促進されたと感じていますか。(性別ごとの回答数)



2018年調査結果の分析 (永瀬伸子・お茶の水女子大学教授作成) 以下の図はいずれもギースHPにて公開済み、ないしは近日公開予定

有期雇用者の割合 人文科学系(在学者除く)

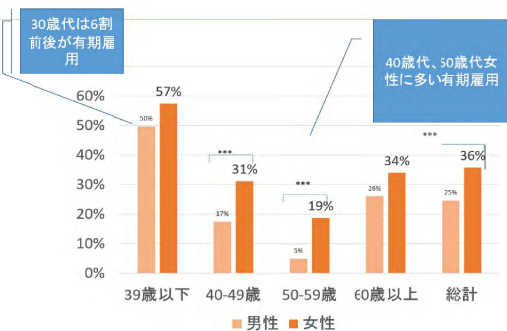


図2-3 専攻分野別にみた有期雇用者の男女別割合。

